Workshop | Proctology

Sat. Nov 21, 2026 1:30 PM - 3:10 PM JST | Sat. Nov 21, 2026 4:30 AM - 6:10 AM UTC | Room 7 (1F 107)

Workshop 9 The Impact of the Clinical Practice Guidelines on the Management and Care of Fecal Incontinence

Moderator: Toshiki Mimura

[WS9-4] Developing transanal irrigation therapy with the Clinical Practice Guidelines for Fecal Incontinence - Future perspectives based on the long-term outcomes-

*Yuko Homma[1,2] (1. Makita General Hospital, Proctology Center)

【緒言】経肛門的洗腸療法(transanal irrigation:TAI)は,便失禁診療ガイドライン初版発刊の2017年には保険未収載であったが,2018年に脊髄障害を原因とする難治性排便障害(neurogenic bowel dysfunction: NBD)に対して指導管理料が保険収載され,その後に材料加算追加などで発展してきた.当院では2018年からTAIをNBDは保険診療下で,直腸手術後の難治性排便障害は臨床研究下で実施している.
【目的】当院におけるTAIの治療効果と長期成績を検討する.
【方法】2018年5月-2026年4月に便失禁を主訴にTAIを施行した患者を対象とした.治療効果は,10週以降もTAIを継続した割合を治療成功率とし,排便管理に関する満足度(最悪0点-最良10点) と症状を検討した.症状は,NBD患者はNBDスコア(最良0点-最悪47点),直腸手術後患者は低位前方切除後症候群(low anterior resection syndrome: LARS)に特異的なLARSスコア(最良0点-最悪42点)で評価した.長期成績は1年以上TAIを継続した者を対象とし,洗腸前と最終スコア取得時(長期スコア)で比較した.
【結果】対象患者は16名[男10名,TAI導入時年齢中央値51.5歳(範囲:21-79歳)]で,NBD6名と直腸手術後10名(LARS8名,Hirschsprung病術後1名,鎖肛術後1名)であった.なお直腸手術後群には2017年に他院臨床研究下でTAIを導入し,主治医異動に伴い当院で診療継続している3名を含む.10週以降もTAIを継続したのは14名(成功率87.5%)で,1年以上TAIを継続したのは13名(81.3%),TAI継続期間中央値は31ヶ月(0.7-112.6ヶ月)であった.NBDスコア中央値(n=6)は洗腸前27点→10週目15点と有意に改善し(p=0.03),長期スコア(n=4)も13点と改善を維持していた(p=0.3).LARSスコア中央値(n=8)は洗腸前37点→10週目33.5点と若干改善し(p=0.1),長期スコア(n=6)は27点とさらに改善していた(p=0.6).排便に関する満足度(n=15)は洗腸前0.3点→10週目8点と有意に改善し(p=0.0001),長期スコア(n=13)も8.5点と有意に改善を維持していた(p=0.0002).全例で有害事象発生はなかった.
【結語】難治性便失禁に対するTAIの成功率は87.5%で,長期成績での継続率も81.3%であった.症状スコアの改善は有意ではなかったが,排便管理に関する満足度は長期的にも有意に改善していた.

©一般社団法人 日本大腸肛門病学会